

6 協議

議 題	いじめ、虐待の未然防止について、子どもがSOSを出すことのできる方法の構築
内容	<p>○いじめや虐待で自死に追い込まれた児童生徒は、問題事案が発生した初期段階においてSOSを発信できなかった例や、SOSを出すことを躊躇してしまう例が多くみられる。</p> <p>○SOSを受け止める側の教師や保護者が、門戸を開く姿勢を子どもたちに分かりやすく具体的に示す必要があると考える。</p> <p>○子どもの自死や虐待についての問題は喫緊の課題であり、子どもがSOSを出すことのできる具体的な方法について早急に手立てを講じなければならない。過去には、本会においてネット使用ルールを決議し、各学校やPTAに降ろすことで、学校現場はネット使用のルール策定や啓発を推進しやすくなった経緯があるため、本件についても同様にスピード感を持ち、西脇市青少年問題協議会がリードして構築できると考える。</p> <p>○本年度の西脇市青少年問題協議会の協議内容は本テーマを柱とし、年間3回の協議会すべての会で協議することにより、深く市民に問題解決に向けた協同的な取組を啓発できると考える。</p>